

21) 代議士坂本一角, DDS

Member of the House of Representatives Sakamoto Ikkaku, who is Dentist

医の博物館 樋口輝雄

Teruo Higuchi, *Museum of Medicine and Dentistry*

日本歯科医学専門学校を大正 10 年に卒業した坂本一角は、鳩山一郎に師事して政治家を志し、昭和 3 年に第 16 回衆議院議員選挙で初当選、以来衆議院選挙に当選し、昭和 22 年に没した。

今は歯科界でも坂本一角の名を知る人は少なく、歴史書にその事蹟は記述されていない。日本歯科大学卒業生では初めての国会議員だが、現時点で判明したことを報告したい。

坂本一角は明治 30 年 (1897) 10 月、東京の西多摩郡檜原村に生まれた。檜原村は現在も島嶼を除き東京都内で唯一の村だが、八王子に転居したのち、東京府立第二中学校 (現都立立川高校) を経て、大正 10 年に日本歯科医学専門学校を卒業した。また明治大学法律科に学び、府立第二商業学校 (現都立八王子桑志高校) 教諭を務めた。昭和 3 年 (1928) 2 月の第 16 回衆議院選挙に東京三多摩地区を選挙区とする東京第 7 区 (議員定数 3) に立憲政友会から立候補し、全国最年少で当選を果たした。その後、17、18 回選挙に連続当選し、昭和 17 年には翼賛政治体制推薦により、第 21 回衆議院選挙に当選した。また昭和 3 年度から 4 年間に、財団法人日本歯科医学専門学校の監事を務めている。

『植民』誌の昭和 7 年 12 月号「移植民界人国記」にはその容姿と閱歴を「短軀矮小だが、便々たる腹をつき出して東洋豪傑風に歩く彼。代議士当選三回の今日でも、外観上からは、寧ろ昔ながらの政友会院外団の理事として鳴らしていると云った方が相応しい位の風貌である。…兎に角彼の海外発展に関する熱意は、この時関係者に漸くみとめられた。いまは東京高等拓殖学校々長を兼ね、嘗て兎角の噂があった前身「海外拓殖学校」を改革して、献身的努力をしている。未だ独身だとかい

う。前途に期待する所大」と記している。

この「東京高等拓殖学校」は昭和 7 年に東京府北多摩郡小平村 (現小平市) に設立され、東京都公文書館には、昭和 9 年 8 月付の同校「学則変更願」が所蔵されている。添付された「東京高等拓殖学校設立趣意書」や同校「要覧」によれば、鳩山一郎や山岡萬之助らを顧問とし、学科は満蒙科、南洋科、南米科の三科で修業年限は 2 年、拓植倫理、植民地関係法規、亜寒帯農業、亜熱帯農業、拓植商業論、植民地衛生などを教授した。学科目中、剣道、柔道の武道は必修で、随意科として乗馬練習や、自動車練習があるのがこの学校の特色を感じさせる。

坂本一角は、戦争中に歯科医師の医師資格取得、「医師免許の特例」請願運動の際に紹介議員となり、法案成立に寄与したというが、その詳細に関しては現在調査中である。翼賛議員であったため戦後公職追放となり、失意のうちに昭和 22 年 5 月死去、八王子の浄土真宗大谷派善能寺に葬られた。もし鳩山一郎内閣成立まで存命であれば、鳩山政権の中で枢要の位置を占めただろうと言われている。

その死を惜しみ昭和 28 年 11 月、善能寺の境内に顕彰碑が建立された。「坂本一角君之碑」の題額は、自由党総裁鳩山一郎。撰文は、かつて府立第二商業学校の国漢科教諭を務めた八王子史談会会長・天野佐一郎が草した。碑にいう、「講道館七段、剣道・弓道五段、及書画にも通じ各技の達人であつた。而も清貧に処して自ら楽み正を踏み義を貫いた蓋敬愛すべき政治家であつた。晩年独自の手法から得た一角の達磨は当代一で其の遺墨は各地に保存されて君の風格を偲ぶ記念である」と。